

農 耕 文 明 発 祥 の 地

■ 連日のように放映される澄みきった青空と、果てしなく広がる赤茶けた大地、そこでは昨年（2003）3月にはじまり、いつ果てるとも知れない力の応酬がいまだに続いています（2004年5月現在）。戦乱の害をもっともひどく被るのは一般市民であって、早く穏やかな平和が訪れて欲しいとは、イラク国民はもちろん全世界の人たちの切なる願いでもあります。

映し出される首都バグダッドの有様は、治安が悪化しているといわれながらも、壊れたビル街のあちこちに食糧品、日用品をはじめいろいろな品物が並び、市民が集り談笑し、また、どこにももってゆきどころのない怒りをぶちまけたりしていますが、オレンジ、メロンなどの果物、トマト、ジャガイモそのほかの野菜を、あふれるばかりに積み上げた露店も見られます。かつて太平洋戦争中、生活物資の全部を乏しい配給に頼らざるを得ず、商店街がゴーストタウンと化した日本と異なり、湾岸戦争後長い間不自由な経済を強いられ、この国では表面を見る限り、物資が不足しているように見えませんが、もともとこの国は農産物、食糧の生産能力が高いのでしょうか、また物資を調達できるルートをもっているのでしょうか。

■ イラク国土の面積は、日本よりやや広い43.8km²（日本は37.8km²）、北緯29度から37度の間に位置しています。北部は標高1000mを越す山岳地帯で、年間雨量は200mm以上、その他は首都バグダッドを含め150mm前後で、そのほ

とんどは12月から3月までの間に降り、地域によってはほとんど雨が降らないところもあります。気温は5月から10月にかけて高温が続き、7、8月は高温気温が50度に達することもあり、バグダッドは熱砂の都と呼ばれたくらいです。高温少雨のため国土の80％は砂漠化した荒れ地で、植性がほとんどなく、テレビで放映されるような赤茶けた不毛の地となっています。

しかし、幸いなことに北に隣接するトルコの山岳地帯に源を発するチグリス、ユーフラテスの大河が国土を横切るように北西から南東へと流れています。この流域は世界最古の農耕文明発祥の地ですが、自然の降雨に頼った農業は成り立たないため、河川を調節したり、運河を造ったりして大昔から完全に近いような灌がい網が設けられて農業の発達を見てきましたが、のち蒙古軍などの侵入があり、これらの設備の多くが破壊され、繁栄していたこの地も衰退の途を辿るようになります。現在では大掛りなダムが多数建設されるほか、河川の調節によって農業が営まれています。水が供給されることによって作物はよく生長し、多量の有機物を生産しますが、収穫された残りは畑地に還元され、また飼育されている多数の家畜により土壌の肥沃化が保たれています。

■ この国の耕地は575万ヘクタール（1994年現在）で日本のそれよりも広く、牧草地400万ヘクタールを加えると国土の20％強が農牧に利用されていますが、森林は少なく、1％にも満たません。イラクを含む西アジア地方は

麦作発祥の地であって、現在でもコムギはもっとも生産量の多い作物で、年間80(万トン、1999年、以下同)、ついでオオムギ50、トウモロコシ10となっていますが、大河の流域には水田も開けて稲作も行われ、コメの生産量は24となっています。野菜ではトマトとジャガイモがとび抜けて多く、それぞれ80、38で、またこの国は果物の産地としても知られ、品質のよいオレンジ、ブドウ、リンゴを産しますが、もっとも有名な果物としてはナツメヤシ (date) があります。

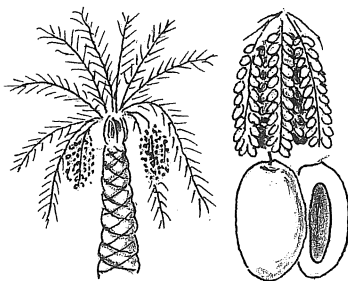
ナツメヤシはペルシャ湾岸が原産地とされ、高温の期間が長い気象条件でよく生育し、20 m前後の高さにまで達します。3～4 cmの長楕円形の実を沢山つけた房を1本に十数個つけますが、実には長い種子が1個あります。たいへん甘く、また栄養分があり、生の果実でも糖分含量が60～65%、水分は20%くらい、それに2%ほどの蛋白質を含んでいます。米国カリフォルニア州産のオレンジなどが世界でいちばんおいしい果物である、と誉める人も多い一方で、イラクのナツメヤシを挙げる人も結構いて、いかにこの果物が美味であるかがわかります。この国でも両大河が合流する地帯でもっとも多く栽培され、生果実として、また乾果として輸出され、イラクの重要

な輸出品の一つとなっていました。日本でも以前乾果が輸入され、薄い皮に包まれた甘い実は好評を博していました。この国のナツメヤシ生産量は60万トン、世界第4位ですが、品質は一番であるとイラクの人達は自慢しています。

なおこの国での生産はありませんが、イラクは世界でも一人あたり茶の消費量が多い国の一つにあげられていますが、他の中東諸国と同じく人々が集まって語り合う場所で、お茶が好んで飲まれることによるものと思われます。

■ 草地が広いイラクでは牧畜が盛んで、ヒツジ、ヤギ、ロバ、らば、ウシ、水牛、ウマ、ラクダが飼育され、家畜、畜産品は農村での大きな収入源となっています。羊毛は重要な輸出品の一つですが、有名なアラブ馬は乗用としていまでも高い評価をうけてはいるものの、需要は減少しました。イスラム教の影響でブタは飼育されていませんが、この国ではいまでも遊牧民がおり、ラクダはこれら民族が移動するときの荷物運搬に用いられます。

肥沃な農耕地をかかえているイラクでも、国内生産だけでは2,300万国民を養えず、相当量の食糧を輸入せざるを得ません。大方がご存じのようにこの国は世界第二位の石油埋蔵量をもち、原油を輸出して機械、食糧その他を輸入しています。湾岸戦争(1991)以前の数字ですが、輸出額3959(100万米ドル)のうち原油が98%を占めていて、特産ナツメヤシ、羊毛もその陰にかくされた格好です。輸入は1338(100万米ドル)、うち機械類30%、ついで穀物10%、酪農製品6%と、食糧がかなり高い比率を占めています。(編集部)



ナツメヤシ